

## 【当選インタビュー】足立敏之参議院議員／経済対策で大型補正必要／魅力ある産業へ意欲

7月10日に投開票が行われた参議院議員選挙において、自民党の足立敏之氏が2期目の当選を果たした。建設産業界の職域代表として全国比例区で約25万票を獲得し、党内の順位は前回の6位から5位に上がった。初出馬時から一貫して「建設産業の再生なくして日本の再生なし」を訴え続けている足立議員は、経済対策として公共投資を中心とした2022年度の大型補正予算の必要性を強調するほか、建設産業を若者や女性が志を持って入ってきてくれる、魅力ある産業にするための中長期的な取り組みに意欲を見せる。当選の喜びの声とともに、2期目の抱負を聞いた。



2期目の抱負を語る足立議員

◇

足立議員は、選挙期間中に全47都道府県の66カ所を回り、移動距離は約2万kmに及んだ。コロナ禍で難しい選挙戦を余儀なくされたが、開票直後に当選確実の報道が出たことを喜び「全国で応援していただいた皆さんに、心から感謝したい」と述べ、業界関係者と議論しながら魅力的な産業とするための方向性を探る姿勢を見せる。

短期的な取り組みでは、秋の臨時国会における公共事業予算を含めた大規模な経済対策のための補正予算の議論が注目される。「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の3年度目の予算計上は当然だが「生産性向上や資材高騰対策をどのように盛り込むかが重要な課題。市街地再開発など建築分野の民間工事への影響軽減も必要になる」とした上で、リーマン・ショック時や建設工事費が高騰した際の過去の対応も参考に対策を講じる必要があると話す。

中長期的な取り組みとしては「5か年加速化対策」後のさらなる国土強靱化計画の取りまとめ、時間外労働規制の適用が迫る建設業の働き方改革の問題、若者や女性が入ってくる建設産業界のための環境整備を目指す。魅力的な産業に向けては「DXなど最先端の技術を持った産業に転換していく取り組みを進めたい」と考えている。加えて「日本のこれからを考えた時に海外と戦えるインフラの整備が必要。自分たちの子孫にも幸せを実感してもらうためには経済成長が不可欠で、そのベースとなるインフラをしっかりと整備し直さなければならない」と強調し、積極財政の下でインフラ整備を立て直すべきと力を込める。

また、全国を回る中で建設産業の賃金水準向上への期待の大きさを肌で感じたとし「日本の賃金レベルは国際的に見ても低く、建設産業の賃金レベルはさらに低い。これを立て直したいという話をすると、若い人を中心にすごく反応が良かった。やはり『新3K』のうち、給与に対する期待は大きいと感じた」と語る。さらに「建設産業の賃金アップの立役者はアベノミクスであり、建設産業の再生を支えてくれた。アベノミクスで財政出動を訴えて公共事業予算が伸びてきている」と指摘。安倍元首相に対する感謝の念を忘れてはいけないとしながら「公共事業を増やしてきたことで建設産業は再生してきた。アベノミクスの流れを継いで公共事業予算を増やしていくことを続ければ、製造業の平均賃金を追い抜いて全産業に近づくのではないか」との見方を示した。